



太工通信

令和3年度 第17号

ヘルメット着用

太工高着用9割超す

「自分の命自分で守る」



2学期に入り、ヘルメットを着用して登校する生徒ら。ヘルメットは中学時代のものやスポーツタイプなどさまざま

別なことはしていないが、粘り強く呼び掛けた結果」と受け止める。

当初は「面倒」「格好悪い」「費用がかかる」などの理由で生徒や保護者から

理解を得られないことを危惧していた。職員の間でも「命を守るために着けてほしい」という意見は一致していたが、「定着は厳しいのでは」という雰囲気があったという。

「ろ」という自発的な雰囲気をつくるため、自転車事故による致命傷の6割が頭のけがという県警のデータに基づき、ヘルメットの必要性を重点的に伝えた。月に2〜3回ある学年集会や全校集会に加え、保護者にも理解を得るために学校通信や学校一斉メールなども利用して呼び掛けた。

さらに、太田署交通課と合同で交通安全教室と2度のマナーアップ運動を実施した。1学期の終業式の登校時は「全員ヘルメット着用宣言！太工生！」などと書かれたのぼり旗を掲げ、生徒と職員が啓発グッズを配布した。

生徒会長の佐藤大樹さん(17)は「初めは面倒だと感じていたが、今はかぶっていないと目立つ。自分の命は自分で守らないといけない」と力を込めた。3年生の保護者は「最初は『中学生みたいで格好悪い』と抵抗していたが、今は習慣化しており、送り出す側も安心感がある。子どもと安全について話すきっかけにもなった」と語った。

登校時の改善が進んだ一方、職員が目が届きにくい下校時や校外での着用率は下がるとみられることは今後の課題。平間教諭は「かぶらないと違和感を覚えるくらい定着するように、今後も重要性を伝え続けたい」と意気込んでいる。

(時田菜月)

学校と警察 啓発連携

自転車乗車時のヘルメット着用を努力義務化した改正県交通安全条例が4月に施行されて約半年、太田市の太田工業高(滝川豊宏校長)の登校時の着用率が9割を超えた。学校側の呼び掛けや太田署との連携が奏功した。県教委は今月末にも各校の状況を調査する方針で、「他校と比べても非常に早いペース」と評価している。

かぶろうヘルメット

同校によると、県教委からの通達を受けて3月から啓発を始めた。登校時の着用率は1学期末時点で1割に満たなかったが、2学期はほとんどの生徒が着用するようになった。生徒指導主事の平間章雄教諭は「特

